

# はらじゅくかわら版



独立行政法人 国立病院機構

## 横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



湘南のシンボル鳥帽子岩です。宇宙飛行士・野口聡一さんで一躍有名になったのは記憶に新しいところです。

庶務班長 櫻井 明

### 第11号 目次

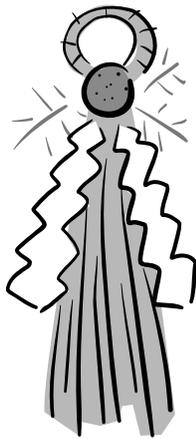
年頭のご挨拶	1
就任挨拶	2
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
地域医療連携室から—戸塚区医師会との懇話会開かれる	4
栄養管理チーム(NST)活動	6
お知らせコーナー	
医療安全管理室より	7
ボランティアの活動・募集/検討会・研究会の開催	8
シリーズ	
時節の病気—スギ花粉症の対策	9
気になる病気—あおそこひ(緑内障)	9

職場紹介 — 救命救急病棟/ボイラー室	10
栄養相談について	11
今年の年男・年女	12
「看護部だより」—医師の人事異動	13
患者数の動向/編集後記	14
外来担当医表/ロゴマーク紹介	15

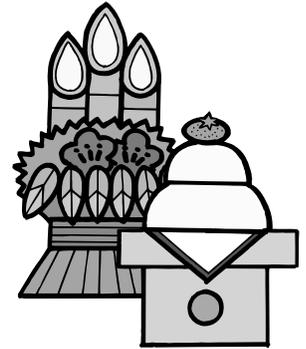
発行 月：平成18年1月  
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター  
 広報委員会  
 発行責任者：高橋 俊毅  
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2  
 電 話：045-851-2621  
 F A X：045-851-3902  
 U R L：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

# 年頭のご挨拶

## 「新病院建設計画が決まりました」



院長 高橋 俊毅



皆様明けましておめでとうございます。平成18年（2006）年を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。当院は平成16年4月1日に独立行政法人国立病院機構横浜医療センターとなり、「患者様中心の医療」「地域完結型医療」「地域で選ばれる病院」などを掲げて提供する「医療の安全と質」の改善に努めてまいりました。しかし、ご意見箱や満足度調査などを拝見いたしますと必ずしも思い通りに改善されずにご不快な点があったかと考え反省しております。従いまして、いまもなおいくつかの目標を設定して改善努力を継続しております。また築40年近い建物設備も必要最小限の改修を行ってきましたが制約があり、こちらもご迷惑をおかけしており申し訳ございません。しかし、幸いなことに、平成17年11月に永年の懸案でした建物の更新築が正式に決定され、平成22年3月に竣工し4月から新病院での診療を行う予定となりました。現在の病院機能を維持するために、北西側にある看護師宿舎や看護学校などを新築移転し、その跡地に7階建ての病院を建設いたします。既に移転先の宿舎の建設が開始されており、看護学校は敷地の南東に建設予定です。養成学生も増やす計画であり、目標とする「質の良い看護師の養成」に必要とされる学校の建物設備も充実させる予定です。

新病院の基本構想は当初の580床、外来患者数1200人の予定から新たに入院500床、外来患者数750人を予定しています。これは多くの急性期病院がそうであるように、当院も現在、在院日数が急激に短縮されつつあり、将来は14日以内と当初計画立案時の70%以下になることが予想され、500床でも当初計画よりも大幅な取り扱い入院患者数の増加となるためであります。また、地域の医療機関との密な連携によるかかりつけ医への逆紹介を励行し、病院は入院患者を主に診てゆく地域医療支援病院を目指す外来患者数を設定しております。外来での診療レベルの向上と入院診療の充実が見込まれることとなります。高い評価を頂いている脳や心血管系の循環器や腹部救急などの救命救急センターを充実させ、独立行政法人化を契機に行っています365日、24時間の小児救急も医師を確保してのNICUの立ち上げなど、地域の要望に即応できる急性期医療を今後とも当院の柱としていきます。さらに患者様や地域の医療機関の皆様のご要望に即応でき、ご利用しやすい地域医療センターや総合医療センター、内科外科の垣根のない臓器別センター、さらに乳房や婦人科疾患などの女性病棟、先のNICUを持つ母子センターの設置などの構想で進めていきます。完成の暁には皆様のご要望にすばやくまた充分応えられる機能的な病院となります。さらに全国13の旧国立病院系の高度総合医療施設と

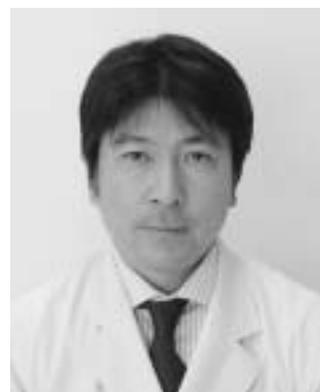
して、がん、循環器、肝疾患、骨・運動器、成育（産科、小児科）、内分泌・代謝疾患、精神疾患、長寿（骨粗しょう症、認知症）などを国立がんセンターや国立循環器病センターなどのネットワークや当院の臨床研究部の成果をいかした専門医療を提供いたします。エイズ拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、移植臓器提供病院でもあり臨床研修指定病院でもあります。更新築が決定され、私を含めて職員の意識も高まってきており、新病院建設が開始される本年を契機として更なる努力を積み重ねてまいります。

本年度は平成18年6月16日（金）、17日（土）に横浜パシフィコで本院が担当する第8回日本医療マネジメント学会学術総会のメインテーマの「医療の安全と質」を基本理念として「地域で選ばれる病院」を目指して心新たに出発いたします。どうぞ多くの皆様のご支援をお願いいたします。

## 就任挨拶

平成17年10月1日付で統括診療部長に就任致しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

平成13年3月に東京女子医大内内分泌内科学教室から旧国立横浜病院の内科医長として着任し、チーム医療、クリティカルパス、病診連携という3つの新しい診療技術を取り入れ、糖尿病と甲状腺疾患を中心に内分泌代謝疾患全般と総合内科の診療を、医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士、放射線技師、事務職員と議論を重ねながら行ってまいりました。平成16年5月には、医局長に就任し、医師の代表としての役割を与えられました。医療機能評価機構審査、DPC調査という病院の更なる発展のために乗り越えるべき大きな試練を迎え、医局長として他職種とかわるうちに、病院職員全員が協力、努力して克服する過程を間近にみる事ができたことは大きな経験となりました。



統括診療部長 宇治原 誠

このたび就任した統括診療部長の職務は「医療の質と安全の向上」のためのことならずべてであると思っています。モットーや座右の銘という照れるのですが、大学生の頃から常に念頭に置き実行しようところがあることがあります。それは「すべての人の意見に耳を傾ける」というものです。「医療の質と安全の向上」のためには、患者さん、地域の皆さんや、戸塚地域の医師の先生方、調剤薬局の方などの医療関係者の皆様のご意見に耳を傾け、病院内外のことに絶えず問題意識を持ち、病院職員の意見やアイデアを積極的に取り入れ、実現してまいりたいと思います。ご指導、叱咤激励をよろしく申し上げます。



# 地域医療連携 病診連携施設紹介

## 森クリニック

診療科目：内科・外科・胃腸科・肛門科

当院はこの欄でご紹介いただいた中で最も新規開業の医療機関で約2年前より横浜医療センター（旧国立）の前の県道に面し診療をしております。診療を日曜・祝日・夜間（月・水・金曜のみ）にもしており、お仕事帰りの方や、わざわざ遠方より来院される方もおられます。横浜医療センターでは当院の発行する診療情報提供書の多くを引き受けていただいております。お願いするばかりでなくご紹介いただいた患者様に御迷惑をかけないように、TS-1・動注療法など抗癌剤やインターフェロン投与時には緊急院内検査（血算・生化）を施行しております。薬剤に関しては最近では医療費の負担を下げる希望が強く寄せられ、処方は院外・院内を問わずジェネリックの薬も喜んで処方させていただき、モルヒネ・フェンタニル製剤を中心とした



下段中央 森 潔 院長先生

麻薬登録もしており院内で投与可能です。問題ないと判断すれば引き続き長期投薬（2ヶ月）の患者様も増加の一途です。在宅医療は地域の医療機関が責任をもってお引き受けすべき大切な責務と考えておりますが、最近往診時間が限られなかなかお引き受けできておりませんが、バルーン交換、気管カニューレ交換、胃瘻交換などのやや高度な医療内容の患者様を主にご紹介していただき連携させていただいております。在宅末期総合診療も国立を中心に現在3名連携させていただいております。末期医療・高齢者医療に関しましては、高度機能病院への変貌が求められる昨今であります。地域に根ざした老人医療・終末期医療までお引き受けいただき懐の暖かさを感じますと同時に、ぜひ切り捨てないでいただきたいと願うものであります。小児科・循環器・脳外科を中心に時間外の救急診療も快くお引き受けいただき地域の医療機関として絶大な信頼をおいております。検査入院や教育入院なども無床診療所としてカバーできないことを積極的にお願いさせていただいております。最近ではクリティカルパスをも使用した御紹介がみうけられ、患者様のご紹介を通じて先端医療を垣間見ている次第です。糖尿病教育入院は開院以来名を数え、即時フィルムと所見のいただけるCT検査も月に約30名くらいをお願いし、常に数人の紹介入院患者様をお引き受けいただき（瞬間的には16名まで）当院を含めた地域にはなくてはならない病院であります。教育啓蒙面におかれましても、看護職員の内視鏡技師試験受験に際しましては見学の便まで図っていただき無事資格を取得することができ感謝しております。当院でも国立を見習い開院来の徐細動器に加えAEDを購入し、事務職員は普通救命講習会より、看護師はAHAコースまで医療の安全確保のため参加してもらっています。実際に当院の玄関前で倒れた方が急性心筋梗塞と診断でき、救急搬入直後にIVRを手際よく実施し救命していただいた際には受け入れのよさを身にしみて感じました。当院では内視鏡診断に力をいれており、開院来胃癌15例（早期癌7例）、結腸癌14例・食道癌1例・小腸過誤腫1例を発見できその多くの治療をお願いいたしております。開院当初に比べ「国立だけには行きたくない」との声が少なくなったのは職員の方々の努力と思われ当院も接遇教育を充実させようと考えております。今後とも御指導・御鞭撻をお願いいたします。



## 森クリニック

〒245-0067 横浜市戸塚区深谷町238  
TEL 045-858-5058 FAX 045-858-5057  
診療時間

月・水・金	8:00～13:00	17:00～21:00
土	8:00～13:00	14:00～16:00
火・木・日・祝祭日	8:00～13:00	

# 地域医療連携室から

## 戸塚区医師会との懇話会開かれる

当センターと戸塚区医師会との第5回目の懇話会が平成17年12月12日（月）、午後7時から9時まで当院大会議室で開催されました。医師会からは佐藤会長はじめ医師会の先生方12名、当院からは高橋院長はじめ医師26名、看護師長ら25名が出席し、熱い意見が交わされました。初めに院長により当センターの更新築計画基本構想案が説明され、続いて当センター各診療科の紹介などがありました。医師会の先生方からは、多くの貴重なご意見をいただきました。一例をあげますと、当センターには紹介などで大変お世話になり、今後も連携をとらせていただきたいという恐縮するようなお言葉をはじめ、経過報告書に記載されている「診断」などは大変勉強になるなどのありがたい言葉をいただきました。また、紹介状の字体について、読みやすいとまではいなくても読める字体でお願いしたい。あるいは、省略文字は極力避けていただきたいといった、お話になるお顔は穏やかでも心にぐさっとくる厳しいお言葉もありました。さらに、インフルエンザ薬品「タミフル」や研修医制度についてのホットな話題もあり、懇話会はつつがなく終了しました。

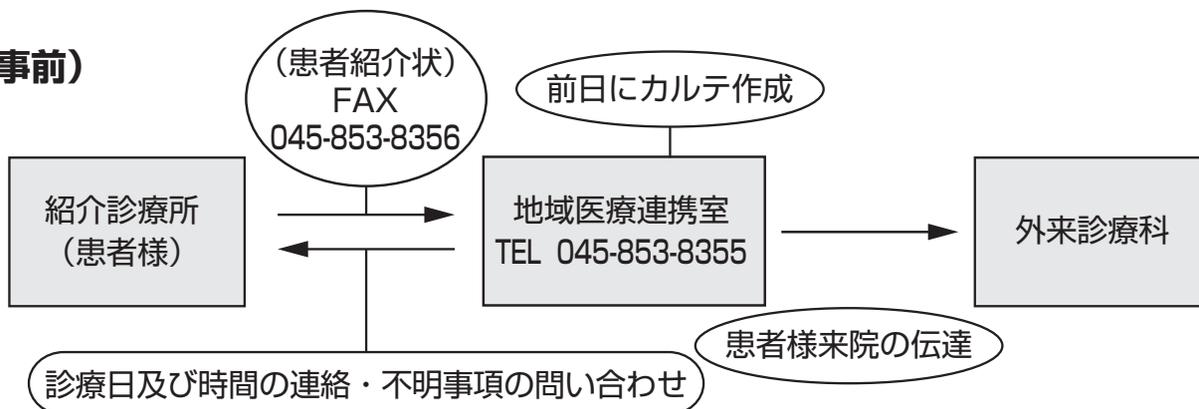
当院の紹介率や逆紹介率は右肩上がりの上昇傾向にあります。これも当センターが安心して任せられる病院であると地域の先生方から認められているからこそということであり、今後におきましても、地域の先生方や患者様から選ばれる病院を目指して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

医事専門職 泉 厚彦



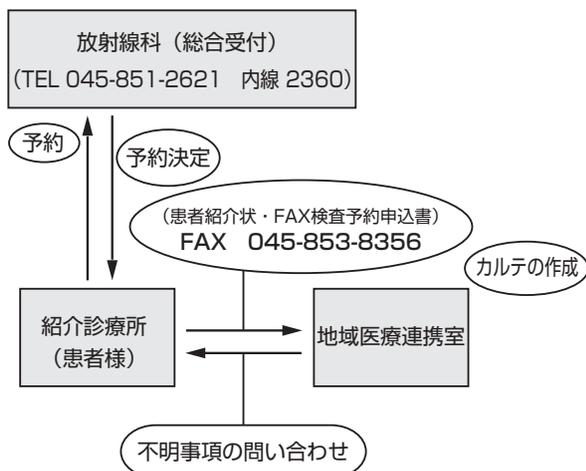
# 診察の予約紹介フローチャート

(事前)



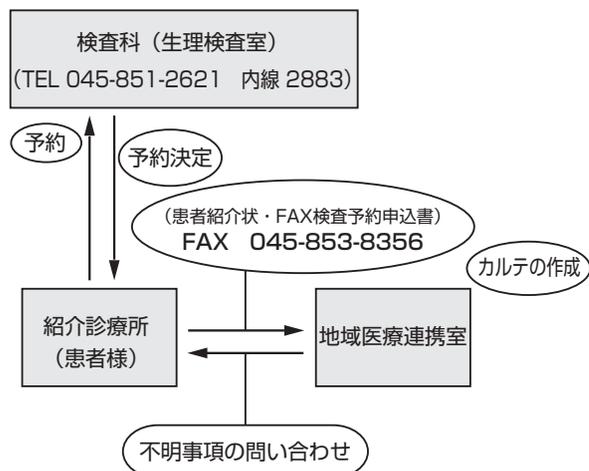
## CT・MRI・RI検査予約フローチャート

(事前)



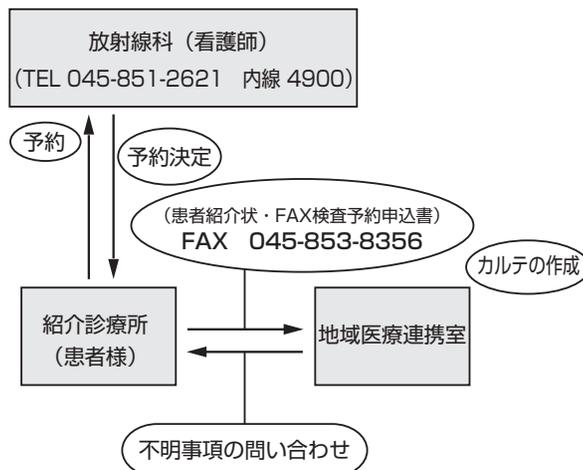
## 超音波・脳波検査予約フローチャート

(事前)



## 放射線治療予約フローチャート

(事前)



# 栄養管理チーム(NST)活動

**食べる動作、飲み込む動作についての勉強会が開催されました。**

**中伊豆リハビリテーションセンター横山美加先生による摂食・嚥下障害への対応の講義がありました。**

毎度この原宿かわら版を通じて当院の栄養管理チーム（NST）の活動について報告してきました。10月28日、11月9日の2回に渡って、中伊豆リハビリテーションセンターの横山美加先生をお迎えし、摂食・嚥下についての詳しい講義を受けました。参加者は院内の各職種にわたり、第1回57名、第二回71名の多数の参加者が真剣に講義を聞き、また実際にものを食べたりしながら実習に励みました。

患者さんに限らず、我々も食事をするときにはまず、食物を口に持っていき、噛み砕く、のどの奥に送る、飲み込むという動作を無意識にしています。しかし、人によっては、その動作が十分できないため、さまざまな障害が出る場合があります。今回は栄養摂取の最初の入り口、つまり食べること、飲むことに焦点を合わせて、入院患者さんの障害の発見とその対応の仕方について学びました。



横山美加先生の講義風景です。



職員の真剣なまなざし

我々は横山先生の講義を受け、食事の最初のハードルである、食べる動作について理解を深めるとともに、実際の活動に生かしていきたいと思っております。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

外科医長 佐藤 靖郎

# お知らせコーナー

## 医療安全管理室より

毎年11月25日を含む1週間〈今年度11月20日（日）～11月26日（土）〉を『医療安全推進週間』として全国的に医療安全対策の普及・啓発活動等が実施されました。今年度の共同行動はポスターの掲示・リーフレットの配布で全国の医療関係機関が取り組みました。

当院では1) 11月25日（金）の勤務者を対象に『ネームバンドによる患者確認』の実際についてアンケートの実施、2) 講演会『本来のインフォームドコンセントとは - インフォームドコンセントがめざしていること -』を開催しました。講師に船橋市立医療センター医療安全管理室室長唐澤秀治先生をお招きしました。医師、看護師をはじめ、全職域から150名を超える職員が出席し、熱心に聴講しました。

当院では患者さま参加型の医療を実践することを目標にしています。患者さまが医療に直接参加する場面となり、かつ最も大事なことばのひとつが『いつもとは違います』と訴えて見えたときです。講演の中でも『いつもと違う』という訴えに間違っていることもあるが、疑問が正しいこともあることに言及されました。今年度のポスターでも『もっと話そう、もっと伝えよう』がテーマでした。患者・家族の訴えや報告を謙虚に受け止め、確認しましょう。そこから安全な医療の提供がスタートします。そのことを職員一同実感できたものと思います。



安全管理担当師長  
富田 美知子



ポスター



カサンドラの予言『誰も信じない真実の予言』説明場面



講師：唐澤秀治先生

# ボランティア活動について

当院ではボランティアを募集しています。

本誌を始め、当院ホームページ、地域のタウン紙に募集の掲載をしていただいたこともあり、今年の夏以降問い合わせが増えてきています。

残念ながら登録に至る方は少ない状況ですが、現在、2名の方が活動しています。

病院を知ってもらうこと、また、ボランティアを受け入れていることをアピールすることからも、この2名の方には現在、週1回ですが曜日を決めて受付での案内をお願いしています。病院の職員とは違う視線で患者さま、外来者に接することができていると思います。

また、夏休み期間中には短期間でしたが学生のボランティアを受け入れ、病棟での患者さまのお世話をお願いしました。

ボランティアは患者さまにとっても職員にとってもオアシスのような存在です。ボランティアを受け入れる際には、協力いただける時間、内容を訊き、できるだけ希望に添うかたちでお願いすることとしています。たくさんの方々のご応募をお待ちしています。



庶務班長 櫻井 明

ボランティアを  
受け入れて  
くださる  
病院を  
応援  
したい

## 活動内容

- ・インフォメーション（案内）
- ・タオルたたみ
- ・花の水かえ
- ・子供の遊び相手
- ・花壇の手入れ
- ・本の整理
- ・車椅子使用者の介助



## 活動曜日と時間

- ・月曜日～金曜日（休日を除く）8:30～17:00  
2～4時間程度

## 心構え・その他

- ・ボランティアは心身ともに健康であることが大切です。
- ・ボランティアは16歳以上の方が対象です。
- ・患者さまのプライバシーを守りましょう。
- ・病院の規則や指示に従って活動します。
- ・活動を根気よく続けることに意義があります。
- ・交通費・食費は自己負担になります。



## 病院ボランティアとは

- ・病院内で、病院職員と協力し合い、患者さまが安全で安楽に入院生活が送れるように、自発的に無報酬で奉仕活動をする人のことです。
- ・医療に関する専門的な知識がなくても、ボランティア自身の経験や技術を活かした活動、誠意ある心からの活動ができることがボランティアです。

## 横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

### 西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科医長  
045-851-2621（代）

### 横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松消化器科医長・松島消化器科医長  
045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

# 時節の WINTER 病 気

## シリーズ

### ～ スギ花粉症の対策(初期療法と季節前レーザー治療) ～

耳鼻咽喉科部長 山田昌宏



今年もスギ花粉症の季節が、いよいよ目前になりました。昨年のスギ花粉は記録的な大量飛散となりましたが、今年の予想としては平年より少なめ（昨年の8分の1程度）との情報も聞かれ、少しほっとしています。しかし、少ないとはいえ安心はできませんから、今からの対策を考えておきましょう。

まずは、治療の原則である花粉の回避・除去です。すなわち、スギ花粉の吸入阻止について対策をとります。花粉情報を早くからチェックして飛散開始に備えましょう。そして早めの外出時のマスク着用や服装の工夫も大切です。また花粉を室内に侵入させないように戸締りはもちろん換気口対策なども考慮しましょう。屋外での蒲団干しや洗濯干しは、お勧めできません。そして掃除をまめにして部屋の花粉を除去しましょう。

次は薬物治療についてです。花粉症において初期療法といいまして、例年強い花粉症症状が現れる方には、少し早めに内服を開始することをお勧めします。つまり花粉飛散開始とともに開始、または症状が少しでも現れたらすぐに開始しましょう。早く始めることで、より良い効果が得られます。

最後にレーザー治療についてです。たとえば高度の鼻中隔彎曲症や鼻ポリープを有する方などには残念ながら適応になりませんが、やはり例年強い花粉症症状が現れる方で、飛散開始時までを目安に、当院では炭酸ガスレーザーを用いた下鼻甲介粘膜蒸散術を行っています（もちろん保険医療の対象です）。まず鼻内を表面麻酔した後、レーザーにて左右の鼻内の一部の粘膜表面（下鼻甲介粘膜）を広範囲に浅く蒸散する方法です。予約制になりますが、外来で短時間に施行でき、また術後に特別な処置は要さないため、患者さんには好評です。

それでは今年の花粉症の季節を少しでもより快適に過ごしましょう。

## 気になる病気

### ●●●あおそこひ(緑内障)●●●

眼科部長 設楽幸治

緑内障は白内障とならんで目の病気の中でも多いものであり、「目の成人病」とも呼ばれ、40歳以上の約30人に1人が緑内障であると報告されています。緑内障は一般に、眼圧（眼球内の圧力）の上昇に伴い視神経が侵される病気であり、多くの場合本人が気付かないうちにゆっくりと視野（見える範囲）が狭くなっていきます。初期症状として読書中に次の行が消えて見えたりします。

緑内障にはいろいろな種類がありますが、大きく2つに分かれます。目の痛みや吐き気など、強い症状が急激に現れる（急性緑内障）と徐々に進行する（慢性緑内障）です。急性緑内障で発作を起こした際には緊急処置が必要となります。緑内障の検査ではまず眼圧を測定し、視力検査、眼底検査および視野検査などを行って総合的に判断します。一度失われた視野は回復しないため、緑内障の治療にあたって最も重要なことは出来るだけ早く発見し、治療を開始することが重要です。

眼圧が高く、視神経に損傷を与えるおそれがあると診断される場合、まず点眼液や内服薬を使って眼圧を下げる治療が行われます。薬が効かない場合にはレーザー治療や手術が行われます。いずれも眼圧を下げる目的であり、治療法によっては外来で行えるものもあります。もちろん、レーザー治療や手術にはリスクを伴うため、慎重に診察して効果があると判断されたときにのみに行われます。以上の点についてご心配の方は、ご遠慮なく眼科外来を受診してください。



# 職 場 紹 介

●今回は救命救急病棟／ボイラー室の紹介です。

## 救命救急病棟 救命救急センター部長 山本俊郎

現在、救急外来から緊急に入院された患者さまは救命救急病棟に入院していただき、病状が安定しだい当該病棟に転棟して頂くシステムを採用しております。救命救急病棟は4床の集中治療室（ICU）、個室6室など30床からなっています。山下看護師長を責任者にICUは日高副師長以下16名が、25名がICU以外の看護を担当しています。ICUでは、開頭術、開胸術や肝臓切除術など大手術後や多発外傷や各種ショック、心筋梗塞、心不全などの循環器疾患や重症肺炎に代表される呼吸不全、脳出血や薬物大量服用による意識障害など重症症例を治

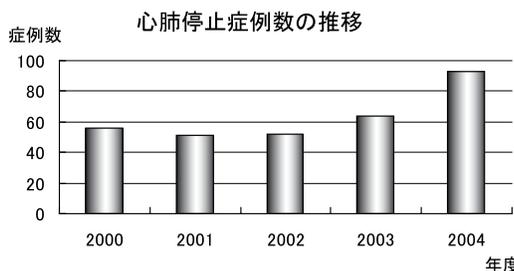


筆者前列右側より2人目

療しております。

これらの患者様

がICUを出られ、各専門病棟に移るまでの期間や吐下血や脳梗塞などを中心に救命救急病棟で治療をしています。このように、多種多様な疾患の治療・看護と頻回に入退室を行なうために多忙を極め、ストレスの多い環境にあります。至らない点やご不満もあると思いますが、その折にはご指摘を頂ければ幸いに存じます。当センターは横浜市の指定11病院に属し、心肺停止症例の受け入れを行っております。最近の症例の推移をご紹介します。救命救急病棟の紹介を終わりたいと思います。



## ボイラー室 ボイラー技師長 石井 昇

明けましておめでとうございます

本年もどうぞ宜しくお願いします。

今月はボイラー室の紹介との言でペンをとります

当職場は365日、年中無休で働いている、個性豊かな3匹のサムライです

仕事は下記の通り病院全体の施設管理です。

業務内容

- \* 冷暖房の運転送気
- \* 給湯給水の供給
- \* 各空調の維持管理それに伴う機械のメンテナンス
- \* 広範囲な営繕業務
- \* 治療棟、サージス棟、各病棟への蒸気の送気
- \* 関係する工事関係者との立会いと対応。



筆者 中央

スタッフを代表して一言

僕たちはドクターやナースが気持ち良く仕事ができるよう、縁の下の力持ちとしてこれからも頑張りますので宜しくお願いします。



# 糖尿病盛りつけ指導について

栄養管理室長 川村 美和子



栄養管理室では糖尿病教育入院の患者様に盛り付け指導を実施しています。この試みは10月中旬より始めました。従来は教育入院の場合の食事指導は講義式で開催していましたが、実際に退院後の食事をどのようにしたらよいか不安が多く、実体験することにより、食事に対する理解が深まり、食事療法を継続しやすくなるのではないかと考え、実施致しました。

患者さまの反応は、「実際量がわかってよかった。」「実際にご飯を盛ってみて、かさの違いにびっくりした。」「みんなで食べて楽しかった。」等、開催するたびにより反応をいただいております。

糖尿病の治療においては食事がキーポイントとなりますので、食事療法を継続していただくためにも体験を重視し、実体験を交えた指導が効果的と思われれます。

まず主食量の計量ですが、理解していても時間の経過とともに、かなりいいかげんとなり、再度入院してくる頃には食べ過ぎていた例はよくあります。

実際に計量に携わることにより、見た目と重量の差を体験してもらう試みです。

主菜においては肉や魚は調理後の重量は変化するという学習です。食品交換表に表示されている重量は生の重量であり調理後の魚や肉を計量すると軽く、焼き魚や焼き肉を交換表のg数で食べると食べ過ぎてしまうという学習です。

次に副菜ですが野菜はほとんどの方が不足気味に取っているので1食に食べる野菜の量の把握をするにはとてもよい学習となります。

調理担当である女性軍はもちろんのこと、男性においても外食や宴会での食べ方の学習にはとても有効です。

下の写真は指導風景と実際に盛られた食事です。盛りつけ指導後は退院後の食事計画や外泊時困ったことなど、食べながら、体験談などが飛び出し、いろいろな話題で盛り上がり、指導者側にとっても、楽しいひとときです。



後列左側 筆者

年男

成年

年女



## 成年の抱負

東4階病棟 新井 美那子



明けまして、おめでとうございます。新年を迎え、私も年女を迎えることとなりました。もうすぐ、看護師となって3年目の春を迎えようとしています。看護師としてのこの約2年間は、慌ただしくあっという間に過ぎて行きました。約2年間、看護師として過ごしてきたなかで、私は、他人と自分を比較し、悩んでしまうところがあり、自分にもなかなか自信が持てず、悩むことが多くありました。そんな時、ある先輩看護師から「新井は新井なんだから」という言葉をかけてもらえた時、ずっと心の中で重かった気持ちがふっと軽くなったような気がしました。

3年目になると、教えてもらう立場から、教える立場へと役割も変わってきます。先輩からかけてもらえた言葉を大切に、自分と向き合いながら自分をアピールして、自分に自信を持って行動できるよう、改めて基本に忠実に看護を行っていきたいと思います。そして、教えることで、自分も成長できるよう頑張っていきたいと思っています。

企画課契約係長 長谷川 克



新年あけましておめでとうございます。

成年生まれということで、新年号の紙面を少々お借り致します。

今年、俗に言う年男になったわけですが、まだ特別な意識はありません。町内会の持ち回りという感じで順番がきたという感覚です。干支という慣習自体、アジア圏のみ(国によっては十二支の中に水牛、豹などがいるとのこと。)で欧米にはないようです。

今年こそ地球から紛争がなくなり、慣習こそ違え、民族がいがみあわない日が来ることを心から願います。

## 成年

外科部長 土井 卓子



犬は人間の最も古くからの友人、ペットであり安産の象徴でもあります。母犬のお乳に群がる小犬たちは幸せの典型です。実は私たち人間女性にも9対の乳房があり、腋の下から鼠径部に向けたミルクラインに沿って存在していますが、現在は4番目のものだけが残っています。使わないとすっかり退化してしまうのです。出産率も一人の女性あたり1.28人とますます減少が続いており、少なくても遅い出産、あまり授乳しないなどの影響でこの残った大切な4番目の乳房も乳癌の危険性が高まっています。ストレスの多い現代社会は自然の営みにひずみをおこしているのかもしれませんが。健康で幸せな女性の生活を守るため今年も女性診療外来はお役に立ちたいと思っています。成年生まれの私は今年3回目、いえ、失礼しました、4回目です。4回目になると女性外来でお聞きする更年期の苦痛も介護の大変さも他人事ではなく、実感であり共感することばかりです。

## 新年の抱負

臨床主任検査技師 久高 果市



新年 明けましておめでとうございます

去年は、慌ただしく過ごしていたせいか気がつくという間に一年が過ぎていました。時の流れの速さをつくづく感じるのは私だけでしょうか。

私の知人が話していたことですが、毎日を忙しく生活している中で、ただ時間に流されるように仕事をかたづけするのに精一杯であるとか、あるいは時おりの休みの日に、ただ漫然と時間を過ごしてしまうというのではなく、豊かな時間を一つでも多く持つことも大切である。豊かな時間とは、自分自身が納得する充実した時間を費やして、ほっと一息ついた時に計り知れない満足感を味わった経験は誰にもあるでしょう。こうした時間を持つことが最も豊かな時間であり、精神的ゆとりを感じることはないでしょうか。このような時間をつくることは、自分自身の努力しかないでしょうと言っていました。

今年も成年です。私も年男(?)となりました。戌の干支の特徴は勤勉で努力家だそうです。この干支の特徴を生かしつつ、この精神的ゆとりを一つでも多く持てるよう一年間努力していきたいと思っています。

# 看護部だより (新年の抱負)

看護部長 糸川章子  
副看護部長 町田恵子  
副看護部長 菊地ひとみ



「患者さま中心」を年頭に暖かい笑顔で、心のこもった看護を目指しています。安全で安心できる看護を提供するために、根拠をもって判断できる自律した看護師を育てていきます。

**東1病棟看護師長 川井まさ子**  
コツ! コツ! 骨! と、新年がやってきました。今年も整形看護のコツを生かし、活気のある病棟にして行きたいです。

**東2病棟看護師長 山下恭子**  
救命救急では患者様の安全と安心を大切に、心のこもった看護・医療を目指してチーム一同努力して行きたいと思えます。

**東3病棟看護師長 菅井優子**  
今年はより良い接遇でスタッフがのびのびと楽しく働ける活気のある病棟を目指します!

**東6病棟看護師長 植木高子**  
『静かな環境』と『薬物治療』と『思いやりのある看護』により早期退院を目指します。

**西1病棟看護師長 篠原祐子**  
患者様にとって温かく、職員にとってやりがいのある看護を目指して、ちょっと忙しいですが頑張ります。

**西2病棟看護師長 黒坂悦子**  
新病院建築が決定されたのを機に、更なる看護部の充実のために看護師全員が邁進できることを願いたい。

**東4病棟看護師長 野崎しん**  
ハートのある看護。思いやるのある看護。をめざして1年間進んでゆきます。

**東5病棟看護師長 立花美葉**  
東5病棟は、消化器単科の病棟で明るく、楽しい職員が働いています。今年も看護理念に掲げている『思いやりのある看護』の実施を心掛けてゆきたいです。

**西4病棟看護師長 三崎洋菜**  
慢性疾患が多い病棟です。患者様が継続して病気と上手にお付き合いするためのお手伝いさせていただくために、患者様と共に考える看護をしていきたいと思っています。

**西3病棟看護師長 細木数子 小林洋子**  
日々来年の私は「達成」に当たる良い年回りとか。これを機により目標に近づけるよう努力したいです。

**西5病棟看護師長 津泉英子**  
優しく、丁寧な看護を心がけ、患者の立場に立った看護を目指します。

**手術室看護師長 加藤木五郎**  
多種の医療スタッフのチームワークを整え、温かい笑顔と心のこもった安全な手術をモットーにしています。



**外来看護師長 竹山洋子**  
患者様や地域の方々にいつでも相談の声をかけていただけるよう笑顔の毎日がんばります。

**外来看護師長 多田博子**  
「知識と行動と心との合体された看護を目指しています。」

**安全管理担当師長 富田美和子**  
『医療安全が今日ほど脅かされていると強く感じない時期はないのかもしれませんが。顔の見える看護の実践をめざしたい。』

**教育研修担当師長 菊池なほみ**  
“人を育てる”をテーマに掲げ、教育研修部の活性化と専任教育担当師長としての役割を果たすよう前進するのみ。

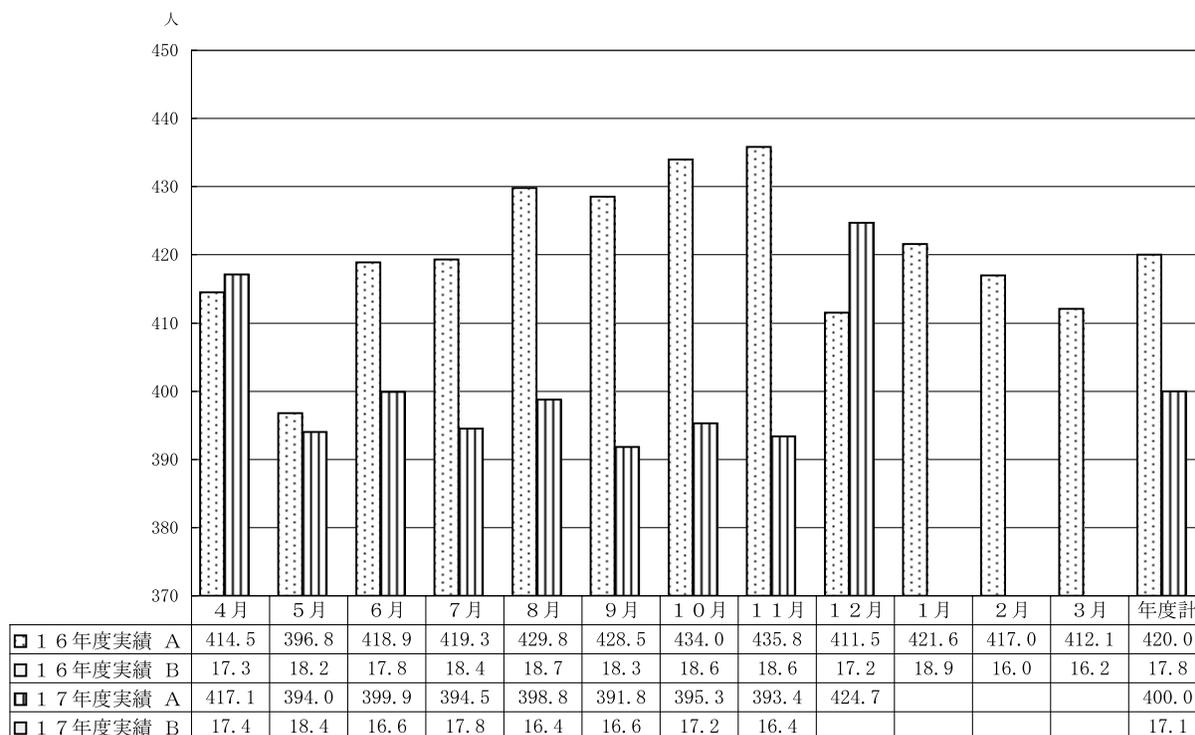
(H17.12.2~H18.1.1)

## ◆ ◆ ◆ 医師の人事異動 ◆ ◆ ◆

退職者				採用者			
発令年月日	氏名	職名	退職後の施設名	発令年月日	氏名	職名	医大卒年
平成17年12月15日	加藤英之	医長					
平成17年12月31日	大野英昭	医長	関越中央病院				

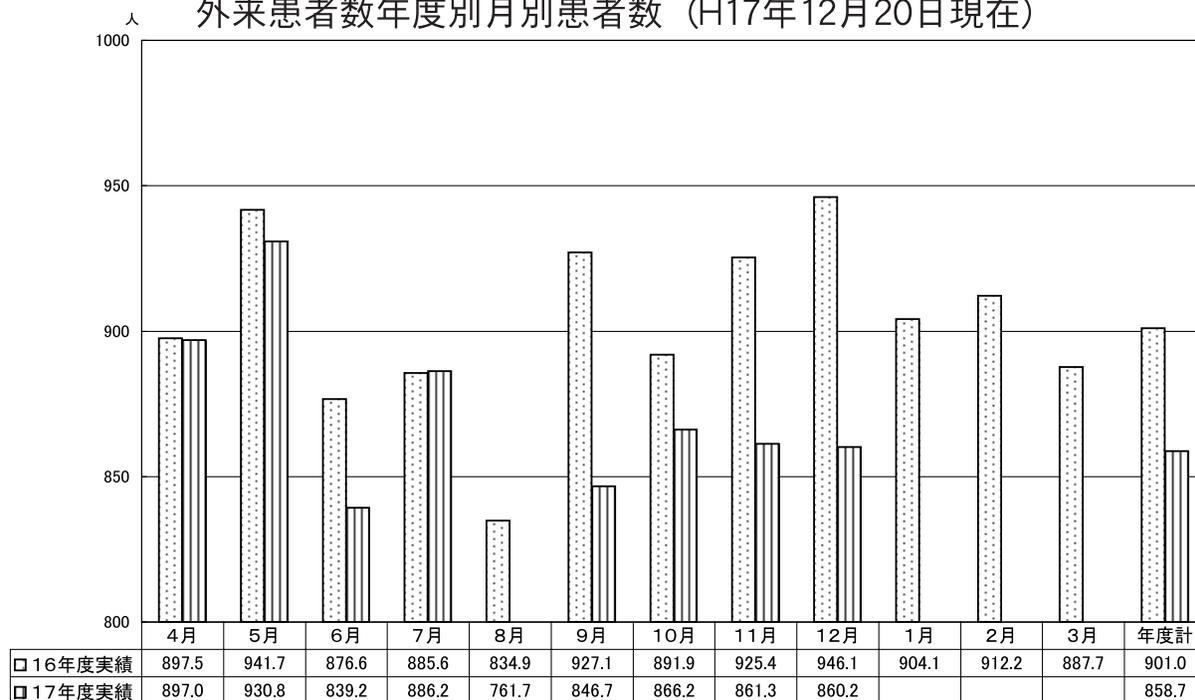
# 患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較 (H17年12月20日現在)



A：一日平均患者数 B：平均在院日数

外来患者数年度別月別患者数 (H17年12月20日現在)



## 編集後記

西暦2005年も過ぎ、西暦2006年と新しい年がまいりました。そして、あけましておめでとうございます。思い起こせば昨年は、色々と明るくない事件がたくさんありました。台風・異常気象・各地の大地震最悪は、子供の殺人事件でした。今年は、昨年のような事がないように明るい社会を目指しましょう。さあ、冬となれば私のシーズンとなります。浜っ子の私は、海ではなく、山歴40年余りのいい加減な山男ですが、丹沢に雪がかおると、夢を見るほど居ても立っても居られなくなり、学生時代は、学校を休んでまでも山に入ってしまうほどでしたが、今は歳を取ってしまい、年末年始に山に入るのを唯一の楽しみにして、毎日、好きな病院で仕事をやらしてもらってます。もし良かったら、皆様も冬の山にでも登って、帰りには温泉でも入って、ゆっくりしてみたら如何ですか。

村上 勇

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	交代医師			大野 美香子	大野 美香子	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ (火)第1. 第3. 第5. [宇治原]・第2. 第4[高木]
内 科	高木 佐知子	眞壁 陽子	鈴木 信周	宇治原 誠		
神 経 内 科	上木 英人	△高橋 竜哉	検査日	上木 英人	検査日	
呼 吸 器 科	椿原 基史	検査日	松本 裕	検査日	椿原 基史	
消 化 器 科	交代医師	塚田 百合子 △小松 達司(肝)	松島 昭三 岸野 真衣子	清水 健	交代医師	小松 達司
循 環 器 科	青崎 正彦 巽 藤緒	加藤 丈二 岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳 米村 文雄	《循環器科新患当番医》 (月)第1. 第3. 第5. [米村]・第2[田中]・第4[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)加藤
アレルギ科	青木 昭子	検査日	検査日	△武田 由希子	武田 由希子	
心 療 内 科	検査日	中川 牧子	検査日	小澤 篤嗣	検査日	完全予約制。(火)第1. 第3. 第5[加藤]・第2. 第4[中川] 表は再来担当医初診医は原則別の医師となります。
精 神 科	立山 哲也 中川 牧子	小澤 篤嗣	交代医師	立山 哲也	小澤 篤嗣	
小 児 科	伊部 正明 石田 華	渡辺 由佳 伊部 正明	伊部 正明 大濱 有子 福山 綾子	伊部 正明 能本 紀子	渡辺 由佳 伊部 正明	
外 科		関戸 仁	◇大滝 修司	土井 卓子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◇:第2・第4水曜日 予約制 ◆:完全予約制 ○:第1・3・5週(水)予約制
呼吸器外科					坂本 和裕	
整 形 外 科	三谷 秀俊 村瀬 知男 葉梨 大輔	日塔 寛昇 三谷 秀俊 遠藤 あかね	三谷 秀俊 葉梨 大輔 村上 恭平	日塔 寛昇 村瀬 知男 遠藤 あかね	日塔 寛昇 村瀬 知男 村上 恭平	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00
形 成 外 科	高瀬 税		△高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	△:手術日のため午前のみ
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	竹本 安範	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	▲ 第1・3・5週(火)・松永 成生 第2・4週(火)・宮原 宏輔
心臓血管外科	東館 雅文	手術日	検査日	益子原 幸宏	東館 雅文	
皮 膚 科	坪井 廣美 松井 矢寿恵 山本 都美	坪井 廣美 松井 矢寿恵 山本 都美	坪井 廣美 松井 矢寿恵 山本 都美	坪井 廣美 松井 矢寿恵 山本 都美	坪井 廣美 松井 矢寿恵 山本 都美	
泌 尿 器 科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康	
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 紅露 有子	中村 秋彦 外村 光康	(新患のみ) 中村 秋彦	永田 順子 中村 秋彦	
眼 科	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	急患・新患のみ(手術日)	(受付) 初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患・急患のみとなります。金曜日 8:30～9:30
耳 鼻 咽 喉 科	山田 昌宏 榊原 敦子	山田 昌宏 榊原 敦子	手術日	榊原 敦子	山田 昌宏 榊原 敦子	
放 射 線 科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注①月曜日 8:30～11:00[完全予約制] ※注②火・金曜日13:30～15:00[予約は内線4900まで] ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯 科 口 腔 外 科	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子	手術日	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。
小 児 科	発達(能本)第2週 第4週 感染免疫・ぜんそく (伊部)	感染免疫・ぜんそく (伊部)	予防接種 石田・渡辺 (伊部)	乳児検診 (能本・大濱)	喘息(石田) 神経(武下) ※第2週	小児循環器科:第3週金曜日(9月・12月)後3ヶ月ごとに実施
外 科	横浜市乳がん 検診 ※注④		癌化学療法外来 (午前診療) ストーマ外来 ※第2・4週	癌化学療法外来 (午前)		※注④横浜市乳癌検診の受付:14:00～16:00乳癌検診
専 門 外 来 (午後のみ)	女性 診療 外来 ※注⑤					※注⑤担当医:外科土井、内科青木・皮膚科坪井・婦人科紅露 女性のための総合診療をめざす外来です。 完全予約制ですので電話で予約して下さい。婦人科は非常に 混雑しているため受診を希望される方は、予約の際に必ず 申し出て下さい。心療内科受診を希望する方は、女性診療 外来を受診して予約を取る必要があります。お手数をおかけ しますが、よろしくお願い致します。
脳 外 科			脳ドック (要予約)			
産 婦 人 科	母親教室			母乳外来		
耳 鼻 科	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
ア ル コ ール 科					交代 ※注⑥	※注⑥ 第2・3・4・5週:米田 13:30～ 完全予約制
循 環 器 科		ペースメーカー外来 ※注⑦				※注⑦ 第2・4週火曜日午後 必ず事前に連絡して下さい。

初 診 受 付 : 平日8:30～11:00  
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり  
再診(予約外)受付: 平日8:30～11:00  
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり  
休 診 日 : 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)  
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。  
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)  
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)  
FAX 045-853-8356

**お知らせ** 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。



独立行政法人 国立病院機構  
**横浜医療センター**

●ロゴマークが新しく出来ました●

・ロゴマークのデザインについて  
横浜医療センターの「Y」をモチーフにして、横浜のさわやかな風  
“はまかせ”と、“鳥のはばたき”をイメージして当院の飛躍をデザ  
インしました。  
色は爽やかな青や白を使うことによって、透明感と清潔感のあるク  
リーな医療をイメージしています。

診療放射線技師 椎名裕子